

(脚)日本女子社会教育会 家庭科学研究所 ○田中和子 木村静枝 竹中はる子

【目的】日常生活を通し環境保全に貢献する道を見出し、生活の仕方、方法の改善に提言ができればと考え、実状を知る1つの基礎データとして家庭内廃棄物であるごみ計量調査を行い第46回家政学会に報告した。この計量調査を通して、ごみ発生・排出は、ごみ・環境問題に対する意識の有無に左右されることが示唆された。この結果を踏まえ地球環境問題に生活者としてどのように対応できるか、また今後の環境対策の方向を見出すために意識調査を行った。

【方法】東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県在住の20歳以上の男女500人に家庭生活を通して、ごみ・環境問題解決への具体的な関り方、貢献についての意識を把握することを目的とした30問をアンケート形式（一部自由記入）により調査した。

【結果】①ごみ・環境問題に対し、男女ともに関心があることが示唆された。環境問題関連用語の周知度、環境問題の原因と結果に関する知識、日常生活における具体的行動においては男女間で差がみられた。

②家庭内での次世代へのごみ・環境問題に対する教育の浸透については若干問題を残していることが示唆された。

③リサイクルを行うためには、省資源という観点だけでは不十分であり、目的達成の有効な方法が望まれる。

これらについて詳述する。